墓の制と定り後世乃其礼
御墓あるべきの礼

碑石

貞幹世々祖先の墓に向ひ
碑やうのものを建ること
墓に向ひて碑あるべきなり
ところ鶴 林雪 人碑 彫以

棺墓以下棺槨後乃刻歳月或識其事始末
蓋亦同而文之耳後世持之石以紀爽述言
而謂之碑銘與古異矣碑ハ棺を下すある
ところの制なり 瓦甃(イシガキ)盤井の墓の石室
石獄この墓とのの碑石皆石土れいまて
ならるものなり
天明五年歳次乙巳初夏 左京藤原貞幹識
寛政八年歳次丙辰仲夏補正 貞幹

寛永二年庚申九月雲西林寺　僧騰字

薬師市近傍いかけまくもかしこくも
勾大兄彦国押武金日天皇の陵　陵は
内の国古市郡石川村にあり日本紀延喜式諸陵
略に陵の高さ六丈二町といふ日本紀に皇后
皇后四皇女乃二皇女神前皇女と合葬せら
るゝ也　御ら[illegible]れ[illegible]墓より二尺の陵皇后の陵
皇后の陵の高さ八尺とあり　石匂と

いまを大和國宇陀郡曲川村の地方にて世世の郎
乃ち今古記に白之金葉宮と云ふ
嘉祥記日本紀に金橋と稱し元と同じ大元
年とあり　一云　留大迦（とおかよ）を迦佐（かさ）の年とく
ものなり　高天原とくやまと國とをつゝみ發
の年毎國の　古へ〳〵年月〳〵くかりやゝの年
なりしかの世を實成とならひく後たいまを
あ宗一云とゝめりあり人の云金峯山縁起　天皇

乃清寧天皇の御子にて天皇おはしまさず一下り時泰
西あり世世に佛教あり泰西にての佛教は紀人の
感言やされ　國家の興亡人世乃清隆時代
ぬれ天皇と云ふ　福福は人の中にて
世の有言ふ言ふ事　天國事を屈行
しらは稱ふ　天國事を屈行のこと
某何人の信仰者　○佛教佛法の
事　佛教の信仰者　時世時世
事く　言語信仰　言語の略行事

義経伝説と桃源郷　義経の墓碑は[illegible]
生兵軍の将軍墓碑　は[illegible]
墓の碑[illegible]　奴僕[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　

かくやうなる事ども世にあるさうん
ことばかりてくてかくてかくてかくの
中にはくらいつくしてとうり
言文政八年[illegible]和尚[illegible]国に導て[illegible]
沖縄[illegible]摂[illegible]和尚と第[illegible]郎十二世
[illegible]世[illegible]第[illegible]回[illegible]
[illegible]師[illegible]

ようふ　近年の事のはあきまて[illegible]
のしうれきんあるくの事[illegible]
[illegible]
うしめくはくて[illegible]師いとはて[illegible]
[illegible]国[illegible]
[illegible]
[illegible]新[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]